

かけがえのない体験によって得た「宝物」とは？

知っ得!

「やっさが繋ぐ地域の輪」の巻

この前、小川久志さんの公演で「やっさもっさ」が地域の繋がりを深めるっておっしゃってました。な。

それが大好きになるよ。って言ったよ。

でも、本当に「やっさもっさ」でまちが好きになるの？僕講演も聞き逃したし分からないなあ。

そんなことだろうと思っただよ。実は三原市内でも糸崎小学校などでは、学校・保護者・地域の人が協力して、子ども達に「やっさもっさ」を教えているんだよ。

今月は、その糸崎小学校を紹介しよう。

は！僕も「やっさもっさ」踊りたくなってきたよ。来月号では、小川久志さんの講演内容についての報告があるんだって、おたのしみ!

糸崎小学校における「やっさもっさ」を通じた取り組みについて

インタビュー!!



(社)三原青年会議所、郷土愛育成委員会では、地域の繋がりが希薄化している現在において、地域が抱える様々な問題などを解決してゆくには、住民同士の横の繋がりが重要であると考えています。また、それに加えて重要なのは私たちのまちに愛着を持っていることではないでしょうか。その、最良の取り組みが「やっさもっさ」にあると考え提案してきました。

そこで、学校・地域・保護者が一体となって、子ども達に「やっさもっさ」を教えられる成功事例として、糸崎小学校の井藤英子校長に、小学校でどのような活動を行っているのかを伺いに行ってみました。



郷土愛育成委員会 三原市立糸崎小学校
相島勝利委員長 井藤英子校長

「やっさもっさ」には、「ひと・もの・こと」の三要素が詰まっている!

桐島 糸崎小学校や前任校の西小学校では、井藤先生が校長に赴任される前から「やっさもっさ」を子ども達に教えられているそうですが、先生はどのような考えで取り組まれているのですか？

校長 子ども達は、自分たちの住んでいる地域の環境によって豊かな心を育みます。その環境を構成する教育資源「ひ

と・もの・こと」(*1)の三要素が郷土に深く関わる教育活動ほど、子ども達に郷土愛を育むことが出来ると考えます。約440年の歴史を持つ伝統文化「やっさもっさ」を学ぶことは、まさに三要素すべてが郷土に関わる有意義な活動であり、本校でも、前任校の西小学校でも、その取り組みを継承してきました。

桐島 「やっさもっさ」に参加することも、子ども達には大きな思い出になるでしょうね。

校長 幼い心にふるさとの良さや、多くの人との楽しい思い出をたくさん蓄えさせておくことが、将来においても「ふるさと三原」を愛する心、大切に思う心、さらには、ふるさと発展のために自分は何が出来るかを考える心に繋がっていくと思います。「やっさもっさ」へ参加することは、子ども達により大きな、かけがえのない感動体験を与えてもらえていると思います。

2面につづく➡

注*1

ひと ~追求意欲・生き方を学ぶ~
地域の大人たちと話し接することで学習を深めたり、人間としての生き方を学んだりします。

もの ~学びの喜び・充実感~
豊かな自然、ふるさとで作られた産物等にふれ、体感することで、学びや充実感を高めます。

こと ~ふるさとのよさ・地域貢献~
歴史・文化・産業等に触れ、体験することで、地域に貢献する気持ちを育みます。

オバマ大統領は四月十五日にケネディ宇宙センターにおける演説で「二〇三〇年代半ばには有人火星探査をおこなう」など新しい宇宙政策を発表しました。この演説は、宇宙への飽くなき探究心と困難なことに勇敢に立ち向かうアメリカ人の気質を代弁したものだと感じられる内容のものでした。

◆一九六一年当時の大統領のジョン・F・ケネディも「六〇年代末までに月面に人を送り込む」という声明を発表しました。その声明の背景には、当時敵対していた旧ソビエト連邦に、人類初の人工衛星打ち上げを先に成功されたことが、アメリカ人のプライドを傷つけ、必ずソ連を追い越してやる!というアメリカ国民の思いとケネディ大統領の声明が一致したものでした。

国を挙げての思いが、そのすべてを乗り越えるパワーとなり、宇宙開発技術に関わる何百とゆう課題の解決を成し遂げ、一九六九年アポロ十一号は月面に到着したのです。◆もしかしたら、オバマ大統領は、過去の成功例から、宇宙政策を発表することで、国民が一体となり、不況を打破できるパワーを生み出せる事を考え、この様な演説をしたのかも知れません。◆一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、同じ使命をもって取り組めば、様々な困難を乗り越えてゆける力を生み出せる事を、歴史が教えてくれています。歴史を教訓に、世界が、国が、地域が、一丸となって未来を切り拓いてゆける事を心より願うばかりである。

またかきいたか